

普及活動情勢報告（令和2年10月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

I P M技術を用いた病虫害防除による促成キュウリ産地の強化

～ I P M技術を用いたキュウリの実証報告～



熱心に説明を聞くキュウリ農家

9月29日、令和3園芸年度における促成キュウリ I P M実証試験について、実施ほ場で説明会を行い、実証農家3人が参加しました。難防除病害の黄化えそ病の他、つる枯病も問題となっており、同病の対策説明の後、JAは薬剤ローテーションについて、農業改良普及課は前年度実証成績やハウスの周辺雑草の防除などを説明しました。

参加者からは前年度の試験結果を元に、発病時期やハウス内環境について質問が出されました。胡瓜部会全体の反省会で実証成果を周知することはできませんでしたが、引き続き取組を継続することになりました。

農業改良普及課は、今後もJA、関係機関と連携してIPM技術の普及・定着に向けて支援します。

ニラの安定生産に向けて

～「千鳥マルチ」の有効性確認に向けた調査を実施中～



毎週調査をしています

JA高知県土佐市ニラ部会では、1年を通して安定した生産を行うために、植え穴が千鳥状に配置されたマルチの活用に向けて検討を行っています。その一環でJA高知県と農業改良普及課は、「千鳥マルチ」の有用性を確かめるため、毎週1回の生育調査と月1回の収量調査を行っています。「千鳥マルチ」を使用している生産者からは、「収量の少なくなる冬場に良さを発揮できるのではないか」と期待の声も聞かれています。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携してニラの生産安定に向けて支援していきます。

優良母樹園の設置に向けて

～JA高知県コスモス柚子部会が役員会を開催～



役員会の様子

10月7日、JA高知県コスモス柚子部会役員会がJA吾北支所で開催され、部会役員7人が参加しました。JAは今年度の出荷に向けた取り組みを、農業改良普及課は優良苗木の確保の必要性の説明と、網室による母樹園の設置に向けて提案を行いました。

参加した役員からは、ゆず産地の活性化には産地で母樹園を設け、安定した優良苗の確保が必要であるという考えが示されました。

農業改良普及課は、今後もJAや役場等の関係機関と連携し、部会独自の網室による母樹園の設置に向けた活動を支援していきます。

ショウガのこと、みんなは知っちゃう？

～いの町立伊野小学校でショウガの出前授業～



ショウガのクイズに挑戦

10月16日、伊野小学校3年生の39名を対象にショウガの出前授業を開催しました。農業改良普及課は、いの町役場、生産者、JA高知県伊野支所と連携し、授業の前半ではショウガの栽培方法や、クイズ形式でショウガのことを紹介しました。後半では、子供たちが実物に触って草丈や親芋、子芋の重さを計測する実習の支援を行いました。

子どもたちからは「食べている部分が茎だったなんて知らなかった」、「葉からもショウガの匂いがする」、「葉を初めてみた」などの声がありました。

農業改良普及課では、今後も出前授業を通して、地元の農産物を知って愛着を持ってもらい、また、食育の推進を図っていきます。

食品衛生法、何が変わるの？
～改正食品衛生法に関する研修会の開催～



改正食品衛生法について
真剣に勉強中

9月30日、土佐市のドラゴン広場において改正食品衛生法に関する勉強会を開催し、14人が参加しました。農業改良普及課は保健所など関係機関と連携し、今回の研修会をコーディネートしました。

参加者からは「何をしなくてはいいかわかった」、「日頃の疑問が解決した」などの声があり、多くの質問が出ました。今回の研修を通して、参加者の法改正に対応した取組意識を高めることができました。

農業改良普及課では、今後も農業者の加工品製造を支援し、農産物の消費拡大につなげていきます。